

資料1

十勝・帯広の高等教育の充実に向けた これまでの取り組みについて

令和4年11月
帯広市

目次

1	目的	1
2	高等教育の取り組みに関する方針転換	
	（1）平成22年度に実施した取り組みの検証	2
	（2）平成23年度の方針転換	3
	（3）方針転換による取り組みの比較	4
	（4）方針転換後の取り組みの方向性	5
	（5）十勝大学設置促進期成会 顧問、会員	6
3	方針転換後の主な取り組み	7
	（1）地域で活躍する人づくり	8
	（2）国内外の大学との連携	12
	（3）企業、人材の集積	14
	（4）人材の活躍の場・環境づくり	16
4	取り組みの総括	18
	今後のスケジュール	19

平成23年度の方針転換（十勝大学設置促進期成会）から約10年間の経過したことから、これまでのとがち高等教育推進まちづくり会議の取り組みの検証作業を行います。

（令和4年度 とがち高等教育推進まちづくり会議 総会資料 令和4年度事業計画）

■趣旨

今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方に関する検討を進めるため、平成23年度に決定した方針転換を踏まえ、約10年間にわたり進めてきた高等教育を活用したまちづくりの取り組みに関する総括を実施するものです。

2 高等教育の取り組みに関する方針転換

(1) 平成22年度に実施した取り組みの検証（平成3～22年度）

大学設置の目的	<ul style="list-style-type: none">・地元進学機会の提供・生涯学習機能の充実・学術研究・人材育成・地域の活性化など
取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none">・18歳人口減少・都心回帰、地方からの撤退（工場等制限法の廃止）・大学全入時代・大学間競争激化・定員割れ（経営難）など
取り組み	<p>■<u>公立、公設民営方式に加え、公私協力方式にまで拡大し取り組んできた</u></p> <ul style="list-style-type: none">・首都圏を中心とする私学法人の訪問・調査・情報収集・関係機関訪問など
期成会の主な意見	<ul style="list-style-type: none">・大学の目的、誘致対象の分野等が不明瞭・地域特性を生かすべき・畜大を核にすべき・20年先を見据えた検討・出口（就職先）が重要・短期・中期・長期なものの整理が必要など
国の方向性	<p>■<u>これからの私立大学の目指す方向性</u></p> <ul style="list-style-type: none">・自立・発展（自己の強みを最大限に活かす個性化・高度化の推進）・連携・共同（自主的な連携・共同の促進、資源結集による相互補完）

新たな大学については、平成12年以降、公私協力方式に優位性があるものとして、主に首都圏を中心とした私学法人の誘致に取り組んできましたが、その実現はできませんでした。取り組みの経過や国の動向、期成会の意見などを検証した結果、次の3点が大きな要因と考えられます。

(新たな大学の整備が実現できなかった要因)

- ①18歳人口の減少や大学間競争の激化、国における大学のあり方に関する検討など、新たな大学誘致に向けては、年々、厳しい状況が生まれていた。
- ②大学誘致（公私協力方式）の性格上、分野等を明確に絞れず、戦略が立てにくかった。
- ③大学誘致において地域特性・優位性に取り組みに十分生かすことができなかつた。

2 高等教育の取り組みに関する方針転換

(2) 平成23年度の方針転換

公私協力方式での大学誘致・看護系大学・医科大学などの取り組みとは別の考え方に立つこととし、帯広畜産大学を核に地域特性・優位性を活かし、まちづくりと連動させながら、段階的に高等教育機関の整備をすすめる取り組みへと方針転換することとした。

平成23年度十勝大学設置促進期成会総会（平成23年5月30日）にて決定

(参考)

■看護系大学について

看護系大学については、全国的な看護師不足の中で、十勝・帯広でも深刻な課題として受け止め、これまで庁内はもとより期成会においても、情報収集や課題抽出などの作業を行ってきましたが、既存の看護師等養成所再編や事業主体などの課題もあり、具体的な議論に発展しませんでした。平成22年3月、帯広商工会議所様から「看護系大学設置について」、帯広市にご提言をいただきました。

同年4月の米沢市長就任後は、長年にわたり前進できなかった大学問題について、看護系大学等も含めて今後の議論の方向性を示すための検証作業を進めてきました。本提言は、高齢化社会の進展に伴い、医療や介護に対する社会ニーズを反映するもので、これまでの大学論議を活発化させたものであります。整理すべき多くの課題があると認識しております。

■医科大学について

医科大学については、地方の医師不足が社会問題となっている中で、国は既存医学部の定員枠の拡大を図りながらも、昨年、これまで認めてこなかった医学部新設の検討を始めております。期成会においても、十勝・帯広の医師確保に対する医科大学の可能性について、期成会や医療関係者からも様々なご意見や情報提供をいただき、国の動向などの情報収集を行いながら検討を行ってきましたが、大学設置に係る国の規制や財政負担など、ハードルは極めて高いものと認識しています。

※出典：平成23年度 十勝大学設置促進期成会 総会資料「地域発展に必要な高等教育機関の方向性について」

2 高等教育の取り組みに関する方針転換

(3) 方針転換による取り組みの比較

	方針転換【前】	方針転換【後】
会議	<ul style="list-style-type: none">○帯広市高等教育懇話会（平成3～）○帯広市大学設置促進期成会（平成5～）○十勝大学設置促進期成会（平成8～）	<ul style="list-style-type: none">○十勝大学設置促進期成会（～平成24）○十勝高等教育機関の整備推進に関するまちづくり会議（十勝高等教育まちづくり会議）（平成24～）○とにかち高等教育推進まちづくり会議（平成27～）
目的	<ul style="list-style-type: none">○<u>人口対策、若者定着</u>	<ul style="list-style-type: none">○<u>高等教育を活用したまちづくり</u>
方針	<ul style="list-style-type: none">○公立、公設民営方式、公私協力方式により、十勝に新たな大学の早期実現を図る	<ul style="list-style-type: none">○帯広畜産大学を核に地域特性・優位性を活かし、まちづくりと連動させながら、段階的な高等教育機関の整備・充実を図る

2 高等教育の取り組みに関する方針転換

(4) 方針転換後の取り組みの方向性

帯広畜産大学を核に、様々な教育・研究を通じた知の拠点の形成を目指すため、十勝・帯広の地域特性・優位性である「食」や「農業」を活かし、フードバレーとかちの展開方策と動きを合わせて、地域で活躍する人づくり、国内外の大学や企業、人材の集積など、高等教育周辺環境づくりを進める。



取り組みの成果を土台に、帯広畜産大学の学部・学科・大学院、新しい大学・学部・学科・大学院など、地域が必要とする高等教育機関の具体的な形を整理し、新たな高等教育機関の整備に向けた取り組みを進める。

(参考)

■とち高高等教育推進まちづくり会議規約

(目的) 第2条

帯広畜産大学をはじめとする高等教育機関を中心に、地域の特性や優位性を活かし、十勝の発展に必要な人材育成や高等教育機関の整備・充実を図ることを目的とする。

■帯広市総合計画の位置付け

第七期帯広市総合計画（令和2～11年度）

施策13 いつまでも学んで面白い —学習活動の推進—

□目指す姿 誰もが生涯にわたり、それぞれの目的やライフステージに応じた学びを続けています。

□主な取り組み

(3) 高等教育機能の整備・充実に向けた取り組みや、大学等と連携したまちづくりを進めます。

2 高等教育の取り組みに関する方針転換

(5) 十勝大学設置促進期成会 顧問、会員

十勝大学設置促進期成会顧問

衆議院議員	石川知裕	北海道議会議員	三津丈夫	北海道議会議員	喜多龍一
北海道議会議員	池本柳次	北海道議会議員	大谷亨	北海道議会議員	佐々木恵美子
北海道議会議員	小野寺秀則	北海道議会議員	山崎泉		
帯広開発建設部長	大内幸則	十勝総合振興局長	竹林孝登	十勝教育局長	秋山雅行
十勝町村議会議長会会長	小野木英毅	帯広市議会議長	野原一登		

十勝大学設置促進期成会会員

帯広観光コンベンション協会	会長	大友俊雄	十勝地区農業協同組合長会	会長	有塚利宣
帯広銀行協会	会長	上杉杉真	十勝町村会	会長	高橋正夫
帯広建設業協会	会長	萩原一利	十勝町村会	副会長	小橋林丸
帯広市	市長	米沢則寿	十勝町村会	文教福祉常任委員長	小勝井本勝丸
帯広市校長会	会長	村瀬勝広	十勝農業協同組合連合会	代表理事長	山本口元
帯広市社会福祉協議会	会長	畑中三岐子	十勝文化団体協議会	会長	関秋好
帯広市商店街振興組合連合会	理事長	夷石行夫	東北海道木材協会	会長	秋佐元
帯広市体育連盟	会長	萩原一利	北海道高等学校長協会十勝支部	幹事	佐藤伸
帯広市町内会連合会	会長	内田秀雄	北海道高等学校PTA連合会十勝支部	支部長	佐藤寛
帯広市PTA連合会	副会長	伊賀淳貴	北海道私立中学高等学校協会帯広支部	支部長	大西正
帯広市民劇場運営委員会	委員長	関口好文	北海道中小企業団体中央会十勝支部	支部長	大井正
帯広商工会議所	会頭	高橋勝坦	北海道十勝管内商工会連合会	会長	竹悦
帯広消費者協会	会長	佐々木涼太	連合北海道帯広地区連合会	事務局長	木田下
帯広信用協会	会長	高橋嗣明	有識者		奥門屋
帯広青年会議所	理事長	高中村浩和	有識者		後藤充
帯広婦人団体連絡協議会	会長	中田和子	有識者		平藤健
出先おびひろ会	会長	小川直樹	有識者		藤原本
十勝管内PTA連合会	会長	堀籠光	有識者		松浦長
十勝小中校長会	会長	香川雅彦	有識者		松宅弘

3 方針転換後の主な取り組み

十勝・帯広における知の拠点形成を目指し、帯広畜産大学を中心とする関係機関により、(1)～(3)の取り組みが進められました。とち高高等教育推進まちづくり会議においても「地域の発展に特に重要な人材像」を重点テーマとして定め、企画・事業部会において議論を実施し、帯広畜産大学や帯広市の取り組みにつなげてきました。

方針転換後の主な取り組み項目

- (1) 地域で活躍する人づくり
- (2) 国内外の大学との連携
- (3) 企業、人材の集積



とち高高等教育推進まちづくり会議

□地域の発展に特に重要な人材像

地域資源を活かした新たな価値の創造に中核的な役割を担う経営者・経営幹部などのリーダー人材の育成プログラムを検討

□具体的な検討テーマ

- ・ 食品安全管理のスペシャリスト養成
- ・ 地域連携による国際水準の獣医師養成
- ・ アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成
- ・ 人材の活躍の場・環境づくり

3 方針転換後の主な取り組み

(1) 地域で活躍する人づくり

食品安全管理のスペシャリスト養成

■とちぎ高等教育推進まちづくり会議における協議

- 食品安全管理のスペシャリスト人材養成に関する意見交換会（H29～R1 計19回）
 - ・食品安全分野の人材育成の現状と課題、取り組みの方向性等を関係機関と協議
- HACCPに関する支援者・指導者等の育成のための研修（H30）
 - ・HACCP支援者・指導者等研修
 - ・十勝地区におけるHACCPシステム構築の標準的な支援方法に関する研修
- 食品安全マネジメント教育機能の基盤強化に関する調査研究
 - ・食品安全に関する企業の現状と人材ニーズに関する調査委託（R1）
 - 道内・管内のHACCP認証事業所等200件に送付（回答数73件 回収率36.5%）
 - ヒアリング調査（首都圏の審査機関・監査会社、大規模の食品関連企業18社）

■帯広畜産大学の取り組み

- 大学院カリキュラムにおける国際基準に適応した食品安全マネジメント教育プログラムを実施
- 十勝・北海道の食品製造企業を対象に「HACCP構築専門家」等の育成研修を実施
- フードバレーとちぎ人材育成事業 食品安全管理コースの開催（H24～）
（帯広市との共同事業）
- 三大学経営統合関連事業「HACCP・食品安全プログラム」の開催（R2～）

3 方針転換後の主な取り組み

(1) 地域で活躍する人づくり

地域連携による国際水準の獣医師養成

■ とかち高等教育推進まちづくり会議における協議

□ 企画・事業部会における議論 (H29)

講師：帯広畜産大学副学長（国際認証担当） 倉園 久生 氏

国際認証の取得に向けて、公衆衛生や臨床に関わる学外実習の充実が必要と指摘されていることから、学生の自習用に各施設の画像提供や実習場所の提供などについて、企画・事業部会の参加機関に対し協力依頼があった。

■ 帯広畜産大学の取り組み

□ コーネル大学獣医学部の視察 (H23)

□ 帯広畜産大学と北海道大学による共同獣医学課程の推進 (H24～)

北大との共同獣医学課程を設置し、各大学から学生40名（計80名）が受講

□ 獣医学教育国際認証室の設置 (H25年)

□ 帯広畜産大学とコーネル大学の学術交流協定の締結等 (H25)

3 方針転換後の主な取り組み

(1) 地域で活躍する人づくり

アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

■ とかち高等教育推進まちづくり会議における協議

□ 企画・事業部会における議論

- ・ 大学や民間企業による取組事例の情報収集 (H29)
- ・ 講師招聘による先進事例の調査研究 (H29)
- ・ 帯広畜産大学の取り組みの情報提供と意見交換 (R3)

■ 帯広畜産大学、帯広市の取り組み

□ フードバレーとかち人材育成事業 (H24～)

チャレンジ精神を持って、企業経営、異業種参入、起業、地域の経済発展に寄与する「リーダー」人材の育成を目指し、大学院生及び地域の方を対象に各種研修を実施

- ・ ビジネスコース (地域産業活性化に向けた経営論、企業戦略論)
- ・ 食品安全管理コース (食品有害微生物講習)
- ・ 農業生産者コース (GAPセミナー (GAP概論、総合的病害虫管理、HACCP構築手法))
- ・ 農業経営者コース (農業者向け経営戦略セミナー)
- ・ 特別講習 (AI活用セミナー、SDGsを始めよう 等)
- ・ 報告会／修了生フォローアップ

累計 受講生数2,059名 修了生数681名 (H24～R3)

3 方針転換後の主な取り組み

(1) 地域で活躍する人づくり

畜産フィールド科学センターにおけるリカレント教育

■帯広畜産大学の取り組み

□生産獣医療技術研修

臨床獣医師が酪農生産現場で必要とされるスキルについて修得を目指した研修。乳房炎対策、飼料評価、ウシの繁殖に関わる画像診断、人工授精等を学ぶ。

□馬繁殖研修

馬の繁殖に関わる人工授精、受精卵移植を学ぶ。

企業と連携したリカレント教育

■帯広畜産大学の取り組み

□帯広畜産大学デイリースクール

次世代酪農後継者の育成を目指したリカレント教育。農業団体と連携した教育プログラムを実施（よつ葉乳業株式会社との連携事業）

- ・デイリースクールの開催
- ・出前講座の開催（鹿追農協、釧路太田農協、更別農協）

3 方針転換後の主な取り組み

(2) 国内外の大学との連携

国内の大学・高等教育機関に関する調査・研究等

■帯広市による取り組み

- 筑波大大学院留学生の受け入れ (H23～24、H26)
- 早稲田大学インターンシップの受け入れ (H23～H30)
- 星槎大学帯広サテライト (学校法人 国際学園) との連携 (H21～)
- 慶應義塾大学アグリゼミ十勝視察の対応 (H24～25)
- その他のインターンシップの受け入れ (日本大学、北海学園大学、釧路公立大学) (H30)

国際協力活動・国際協力人材の育成

■帯広畜産大学の取り組み

獣医・農畜産分野の開発途上地域への国際協力事業の質の向上、国際貢献、学術研究及び教育の発展に寄与することを目的に、JICAとの連携協定に基づく国際協力活動を展開。また、地球規模の課題解決を目指す国際的視野を備えたグローバル人材を育成に向けた取り組みを実施

- JICA草の根技術協力事業 (パラグアイ、ウガンダ)
- 地球規模課題対応国際科学技術協力事業 (JICA・JST・AMEDによる協力事業)
- 海外オフィスの設置 (モンゴル、パラグアイ)
- 海外への専門家派遣 (パラグアイ、ウガンダ)
- 研修員の受入れ (バリューチェーンの整備を通じた農村振興、家畜感染症対策 (原虫病を含む) 研究者育成)
- 学生海外派遣機会の提供 (青年海外協力隊による学生海外派遣、国際共同研究推進のための大学院生派遣プログラム、海外協定締結大学への留学)
- 海外の学生との交流 (ウィスコンシン大学の学生と学ぶサマージョイントプログラムの開講)

3 方針転換後の主な取り組み

(2) 国内外の大学との連携

海外大学等との学術交流協定

■帯広畜産大学の取り組み

□コーネル大学、ウィスコンシン大学との大学間連携協定

所属教員を中心とした人材交流を通して獣医農畜産融合の国際共同研究を実施
(グローバルアグロメディシン研究センター事業)

□大学間学術交流協定 (一覧)

- ・タイ王国 チェンマイ大学 (H24)
- ・米国 コーネル大学 (H25)
- ・米国 ウィスコンシン大学 (H26)
- ・ポーランド科学技術アカデミー (H29)
- ・ポーランド ヴァルミア・マズーリー大学 (H29)
- ・ベルギー王国 リエージュ大学 (H30)
- ・タイ王国 チュラロンコン大学 (H31)
- ・ポーランド ヴロツワフ環境生命科学大学 (R4)

□原虫病研究センターとの部局間学術交流協定 (一覧)

- ・ウガンダ マケレレ大学 (H27)
- ・ブルキナファソ ワガドゥーグー大学 (H28)
- ・南アフリカ ノースウェスト大学 (H29)
- ・中国 中国青海獣医学研究所 (H29)
- ・ブルキナファソ
国際湿地帯畜産研究開発センター (H30)
- ・フィリピン セブ工科大学 (H30)
- ・モンゴル獣医学研究所 (R1)
- ・フィリピンカラバオセンター (R1)
- ・スリランカ動物生産健康局 (R1)
- ・フィリピン カビテ州立大学 (R1)
- ・中国 新疆農業大学獣医学部 (R3)

※学術交流協定はH23以降のみ記載

国内大学との経営統合

■帯広畜産大学の取り組み

□国立大学法人北海道国立大学機構創設 (R4)

3 方針転換後の主な取り組み

(3) 企業、人材の集積

企業・団体等との産学連携

■帯広畜産大学の取り組み

□インキュベーションオフィスによる産学連携

企業・団体等の産学連携活動を支援するため、産学連携センター内にインキュベーションオフィスを設置

(入居企業)

- ・よつ葉乳業株式会社
- ・敷島製パン株式会社
- ・株式会社満寿屋商店
- ・株式会社リープス
- ・十勝清水町農業協同組合
- ・北一ミート株式会社
- ・東日本電信電話株式会社
- ・株式会社十勝大福本舗
- ・日本甜菜製糖株式会社
- ・カルビーポテト株式会社
- ・一般社団法人ミート・イメージジャパン
- ・ホクレン農業協同組合連合会
- ・株式会社山本忠信商店
- ・株式会社ロジネットジャパン
- ・上川大雪酒造株式会社

□受託研究・共同研究受入実績の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
受託研究数	34	41	29	29	25	33	39	33	32	29
共同研究数	81	82	75	80	79	107	136	133	133	143

出典：帯広畜産大学産学連携センター 令和3年度活動報告書

3 方針転換後の主な取り組み

(3) 企業、人材の集積

企業、研究機関等との連携・寄附講座

■帯広畜産大学の取り組み

- 敷島製パン株式会社との連携による製パン実験施設「とがち夢パン工房」竣工 (H24)
- カルビー株式会社と包括連携協定を締結 (H24)
- 寄附講座「生命平衡科学講座 (寄附者：株式会社白寿生科学研究所)」を開設 (H24)
- 寄附講座「バレイショ遺伝資源開発学講座 (寄附者：カルビー株式会社、キューピー株式会社、ケンコーマヨネーズ株式会社、北海道馬鈴しょ協議会、カルビー株式会社 元相談役松尾雅彦氏)」を開設 (H25)
- 地方独立行政法人北海道立総合研究機構との連携・協力に関する協定を締結 (H25)
- 「松尾記念温室棟 (寄附者：カルビー株式会社 元相談役松尾雅彦氏)」竣工 (H25)
- 日本ハム株式会社と包括連携協定を締結 (H29)
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と連携協定を締結 (H31)
- 上川大雪酒造株式会社、十勝緑丘株式会社と連携協定を締結 (R1)
- 株式会社ロジネットジャパンとの連携協定を締結 (R2)
- 帯広畜産大学動物医療センターと有限会社社台コーポレーション社台ホースクリニックとの連携協定を締結 (R2)
- 帯広商工会議所との連携協定を締結 (R2)
- 東日本電信電話株式会社との連携協定を締結 (R2)
- 産学連携センターに企業等集積プラットフォームを設置 (R3)
- 寄附講座「資源循環環境学講座 (寄附者：帯広商工会議所)」を開設 (R3)

■帯広市等の取り組み

- フードバレーとがち推進協議会の設立・運営 (H23～)

3 方針転換後の主な取り組み

(4) 人材活躍の場・環境づくり

人材活躍の場・環境づくりに関する調査・研究等

■とち高高等教育推進まちづくり会議における協議

□企画・事業部会における議論

- ・講師招聘による先進事例の調査研究 (H30)
- ・国内大学の取組事例に関する情報収集 (R1)
- ・具体的な取り組みの検討 (帯広畜産大学、帯広市)

学生と地域がつながるまちづくり

■帯広畜産大学、帯広市による取り組み

□学生と地域がつながるまちづくり支援事業 (R2～)

学生が十勝について学び、関心を高める実学教育・キャリア教育の充実や、学生による自主的なまちづくり活動の支援に取り組み、在学中から卒業後までを見据えた学生と地域とのつながりを強化する。

- ・とち学：十勝について学ぶ地域連携型授業の実施 (R1～)
- ・十勝旅、経営者とガチで学ぶ交流会×勉強会：現場を深く知る課外教育の実施 (R1～)
- ・ちくだいらスタートアップ体験プログラム：学生と十勝をつなぐプログラム (R2～)
- ・十勝ジンギスカン会議：企画運営の体験機会の提供 (H27～)
- ・ちくだいららんぷプロジェクト：地域活性化に向けた自主的活動の促進 (H30～)
- ・学生と地域企業の共同研究：地域産業の活性化支援 (H27～)

3 方針転換後の主な取り組み

(4) 人材活躍の場・環境づくり

地域振興・社会貢献

■ 帯広畜産大学の取り組み

- 高大連携事業の推進（帯広農業高校（H17）、更別農業高校（H22）との連携協定を締結）
- おびひろ動物園との連携協定を締結（H22）、サテライトブース設置による展示（H25～）
- 畜大ふれあいフェスティバル開催（第1回：H23～第9回：R1）
- 一般社団法人帯広市文化スポーツ振興財団と包括連携協定の締結（H24）
- 畜大牛乳（S37～）、畜大牛乳アイスクリーム（H25～）の地元販売
- 帯広動物園大学OZUによるおびひろ動物園50周年記念シンポジウムの開催（H25）
- 障がい者乗馬体験事業（帯広市連携）の実施（H26）
- 「十勝カレッジS I L O事業」の実施（H27）
- ジンギスカン会議の開催（第1回：H27～第5回：R1）
- 公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）と連携協力協定を締結（H28）
- 株式会社十勝毎日新聞社と包括連携協定を締結（H28）
- 農業共生圏高度専門家育成事業の実施（H29～）
- リベラルアーツ講演会の開催（H29～）
- 浦河町及び非特定営利活動法人ピスカリと包括連携協定の締結（R1～）
- 株式会社帯広シティーケーブルと災害時のインターネット通信回線提供に関する協定締結（R2）
- 酒蔵「碧雲蔵（上川大雪酒造株式会社）」が完成（R2）

4 取り組みの総括

地域発展に必要な高等教育機関の整備・充実に向け、以下のとおり取り組みが進められました。

□地域で活躍する人づくり

とちぎ高等教育推進まちづくり会議において具体的な協議テーマを定め、調査・研究、意見交換を進めながら、帯広畜産大学が人材育成プログラム、リカレント教育に取り組み、十勝・帯広の人材育成の体制整備が進みました。

□国内外の大学との連携

帯広畜産大学が国際協力活動や海外大学との学術交流協定を通じ、国際的な教育・研究、人材育成に取り組み、帯広畜産大学と海外とのネットワークの拡大が図られました。

□企業、人材の集積

帯広畜産大学を起点に域内外の企業が集積し、地域特性を活用した共同研究や受託研究の実施、新たな商品・技術開発などにより、十勝・帯広における知の集積が進みました。

□人材の活躍の場・環境づくり

帯広畜産大学の学生が主体となった地域課題の解決等の取り組みが進みました。

これらの取り組みを通して大学と地域の接点が増え、十勝・帯広のまちづくりと大学との連動が進むことで、十勝・帯広の知の拠点形成が推進されるとともに、地域の成長に寄与してきたと考えます。一方、地域が必要とする高等教育機関の具体的な形の整理（具体的な分野、高等教育機関の形態—帯広畜産大学の学部・学科・大学院、新しい大学・学部・学科・大学院など）には至りませんでした。

今後は、今回の取り組みの総括や大学の取り巻く環境の変化を踏まえ、十勝・帯広の高等教育の取り組みの在り方について検討する必要があります。

今後のスケジュール（予定）

令和5年1月 とかち高等教育推進まちづくり会議
（今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方（案）について）

令和5年2月 総務委員会
（今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方（案）について）